

14:12 種なしパンの祭りの最初の日、すなわち、過越の子羊を屠る日、弟子たちはイエスに言った。「過越の食事ができるように、私たちは、どこへ行って用意をしましょうか。」

14:13 イエスは、こう言って弟子のうち二人を遣わされた。「都に入りなさい。すると、水がめを運んでいる人に出会います。その人について行きなさい。」

14:14 そして、彼が入って行く家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする、わたしの客間はどこかと先生が言っております』と言いなさい。

14:15 すると、その主人自ら、席が整えられて用意のできた二階の大広間を見せてくれます。そこでわたしたちのために用意をします。」

14:16 弟子たちが出かけて行って都に入ると、イエスが彼らに言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用意をした。

14:17 夕方になって、イエスは十二人と一緒にそこに来られた。

14:18 そして、彼らが席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ります。」

14:19 弟子たちは悲しくなり、次々にイエスに言い始めた。「まさか私ではないでしょう。」

14:20 イエスは言われた。「十二人の一人で、わたしと一緒に手を鉢に浸している者です。」

14:21 人の子は、自分について書かれている

とおり、去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわいです。そういう人は、生まれて来なければよかったのです。」

「過越の小羊」とは、イエス様のひな型です。かつてエジプトでイスラエルが奴隷として苦しんでいたときに、そこから神様が解放してくださってことを記念する祭りです。そのとき神様のさばきの手がエジプトに下ったのですが、小羊の血を塗った家はさばきを免れました。それはまさにイエス様の十字架の血によってさばきを免れるという救いを表しているわけです。

ですからイエス様はこの祭りにおいて十字架にかけられる必要がありました。イエス様はそれをご存知で、強い決心をもってこの日に臨まれたことがわかります。

そこでイエス様は「一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ります。」と予告なさいました。ユダに悔い改めるチャンスを与えたのです。もしも悔い改めるなら彼はただ神様との関係の中で、誰にも知られずにその問題を解決することができたはずでした。それは主の愛の促しです。しかし彼は、「わざわいです。」とまで警告されても変わりませんでした。

私たちは、主の愛の促しがあるうちに悔い改めましょう。主イエスの十字架への決心は、罪を赦し救うためなのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

